縦走・花と温泉　　立山・大日三山

山行日：　２０２２年　７月２８日（木）～３０日（土）
参加者：　Ｌ　Ｙ田ｔ、ＳＬＷ田ｅ、Ｋ地ｆ、Ｓ木ｍ（記）
場所：北アルプス　　立山・奥大日岳、中大日岳、大日岳
行程：２８日：上野 6：34＝富山 9：10/富山電鉄 9：21＝立山 10：23/10：40＝
美女平 10：48/11：00＝室堂 11：50/12：15－13：00 雷鳥沢ヒュッテ（泊）
２９日：雷鳥沢ヒュッテ 6：35－新室堂乗越 7：35/7：40－奥大日岳 9：40/9：50－
七福園 11：50/12：20－大日小屋 12：55/13：25－大日岳 13：40/13：45－14：00（泊）
３０日：大日小屋 6：00/水場 7：00/7：10－大日平小屋 8：30/8：45－牛ノ首 9：40－
登山口 10：50/11：00－称名滝展望台 11：20/11：30－レストハウス 11：50/13：10
バス停＝立山駅 13：35/14：02＝電鉄富山着 15：10＝上野

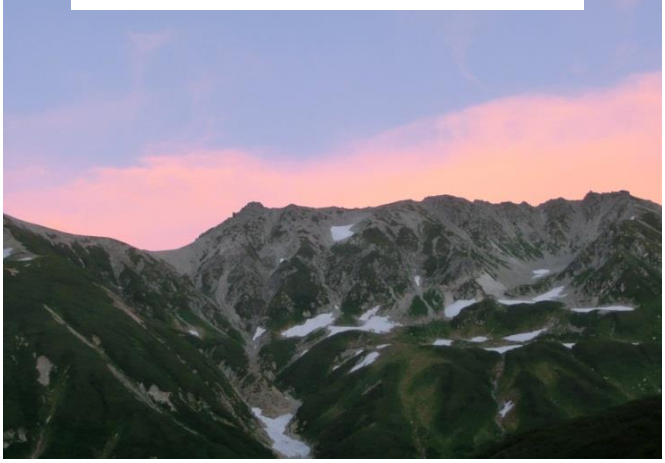
記

立山は観光も含め今回が４回目、室堂平から見る雄大な景色はいつ来ても素晴らしい。
私は、花より団子で、教えられた花の名前も１歩歩くと忘れてしまう花音痴であるが、
未踏の大日三山に登るべく花と温泉グループの　山行に参加した。

１日目：移動日、雷鳥沢ヒュッテに向かう、途中早くもチングルマのお出迎えがある。到着早々露天風呂で一汗流し、早速ビールで乾杯。日中は晴れたり、小雨がぱらついたりと不安定な天候だが、夕方には、立山連峰と夕焼けが見られ、明日の晴天を約束していた。ヒュッテの食事は美味しい
、他の山小屋とは別格である。

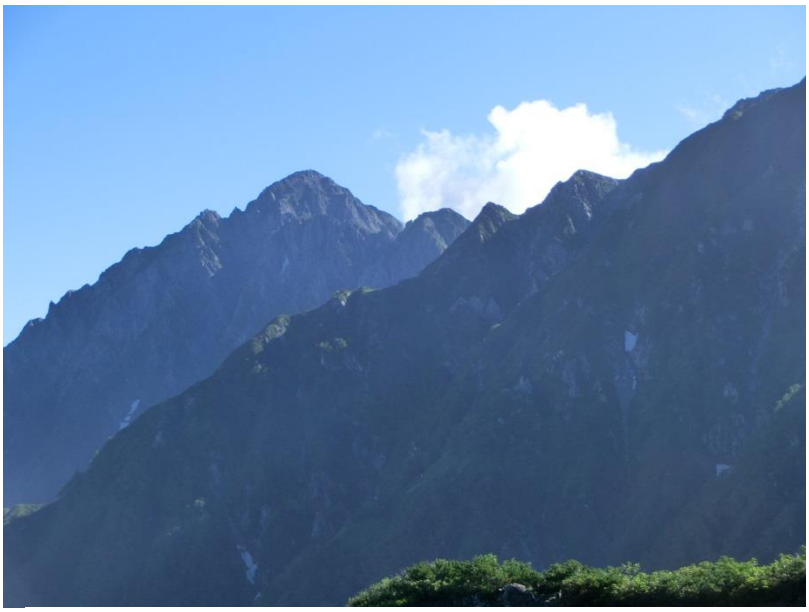
チングルマとイワカガミ

夕焼の立山



快晴の朝：雷鳥沢キャンプ場と浄土山

２日目：晴天の中、剣御前、立山連峰を眺めながら出発、浄土沢の橋を渡りゴウゴウと噴煙を出している、地獄谷を左手に見て新室堂乗越に向かう、乗越しからは展望の良い緩い尾根道をたどる、暫くすると剣岳の雄姿が見えた。尾根道は日差しを遮るものが無く、朝からじりじりと焼かれる感じで暑い、途中何か所もお花畑が有り、チングルマ、イワカガミ、ハクサンフウロ、トモエシオガマ、ショウジョウバカマ、ニッコウキスゲ等々、暫し疲れを癒してくれる、やがて奥大日岳に到着。



新室堂乗越から剣岳

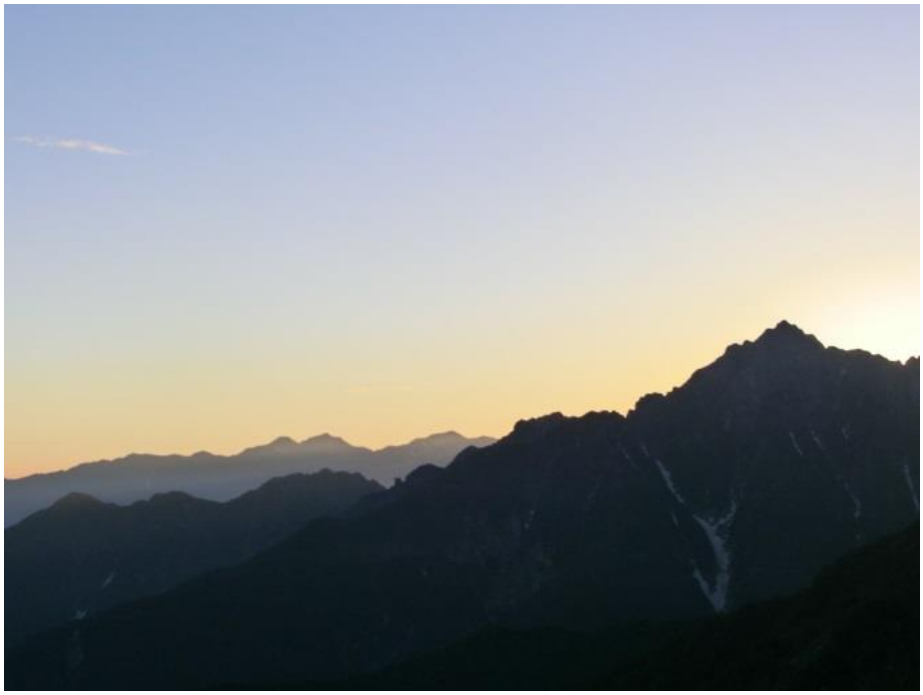
休憩の後、ハシゴや鎖のある危険なガレ場を下り、登るの連続である。
花の百名山にしては男性的結構きつい。紅葉が美しいとされる七福園を通過すると、大日小屋に到着。暫し休憩の後空身で大日岳を往復する。部屋は２段ベット、狭いながらも一人ずつカーテンで仕切られており最低限のプライベート空間が確保されている。

３日目：朝快晴、剣岳の右から朝日が昇る、シルエットが美しい遠くには後立山連峰が望まれる。
これから称名滝に向けて約１０００ｍを下る。大日平山荘までは沢沿いの急な道を往く、小さな沢の渡渉を延べ８回を数えた。やや傾斜が緩やかになったころ、マガリネタケが食い荒らされているのを何か所もみる、後ろから登山者が追い付いてくるような足音が聞こえ、追い越しが有ると声を掛けたら、Ｋさんが“誰も見えないわよ”との声確かにくる気配はない。姿は見てないが熊が近くにいてのかもと思った。

奥大日岳山頂にて

このルートはトレランの方が多い、皆さん熊鈴を鳴らしている。立山・黒部は熊が多い地域であることを実感した。大日平山荘からは平坦な木道が続く、牛の首の手前から凄い急坂、ハシゴ・鎖が連続する。今日は暑い木が低いため日差しが容赦なく照りつける。漸く下ると、ぱっと道路に飛び出した、大日岳への登山口であった。ベンチで小休止の後、広い車道を称名滝展望台へ向かう２０分程度である。

途中水しぶきが雨のように降り注ぐ、暑さが和らぎ気持ちが良い！展望から見る滝は落差３５０ｍと日本一を誇る迫力満点である。今の時期は雪解けが進み水量は減少しているとのこと。予定のバス時間は１３時１０分で有ったが１時間以上あるので臨時便を期待したが無かった。観光客は殆どが自家用車の為乗客は少ないようだ。バス停近くのレストハウスに入り、ビールと
ざる蕎麦で行程の無事達成を祝い乾杯した。
計画を立ててくれた吉田リーダー、そして同行の皆さん有難うございました。思い出に残る良い山行でした。



快晴の夜明け：大日小屋からの剣岳と後立山連峰遠望

称名滝展望台にて